

## 野生動物による農作物被害を防ぐには

NO.6

### <冬季の電気柵管理>

イノシシやサルなどによる農業被害を軽減するため、簡易型の電気柵が導入され始めています。この柵は、設置が自分でできること、費用が比較的安価であることといった長所を持っていますが、管理に当たってはいくつかの注意が必要です。



### 特徴

#### <イノシシ用>

高さ 40～60cm で電気柵線が 2～3 本。

費用は 200～500 円/m 程度。

電源部分が高価なため、小さい圃場に設置する場合には 100m 用セット品（2～3 万円）を利用すると良い。

#### <サル用>

高さ 160cm 以上で電気柵線が 8 本程度。又は電気ネット。

費用は 1000 円/m～。

サル用柵はイノシシ、サル、シカ、クマのいずれにも効果が期待できる。

### 通電の必要性

イノシシ用の電気柵は、収穫が終わると片づけることも多いのですが、サル用柵は設置や撤去の手間がかかるせいか、冬季に放置されがちです。電気柵は、通電して初めて被害防止柵としての効果が発生することを踏まえ、**収穫物の有無にかかわらず一年中通電をする**必要があります。

冬季に通電せず柵を放置すると

加害獣が電気柵に触れても電気刺激を受けないため、柵になれ圃場の中に入る習慣がつく。

春に再度通電開始しても、侵入ぐせは抜けにくい

こととなります。つまり電気柵を設置してから何年かで効果が期待できなくなる訳です。

### 電気柵が獣を防ぐ原理

電気柵は、電気が獣の体を流れる時の刺激（感電）により動物にイヤな思いをさせます。この経験が電気柵を嫌う効果（忌避効果）を生まれさせ、以後柵の張ってある圃場には近づきたがらなくなります。ところが、仮に電気柵が獣にとって脅威を感じないものになった場合、60cm の高さの柵はイノシシにとって容易に跳び越すことも、また線の下をくぐることも可能です。これは体毛がある部分は感電しにくいため、サルなどについても同様なことが言えます。

体毛のない部分（イノシシなら鼻先、サルなら手のひら）で柵に触れ、獣に安全確認をさせ続けることが電気柵の効果を持続させるコツとなります。

### 収穫期以外の柵管理方法のポイント

通年設置、通年通電する。

やむを得ず通電を止める場合には柵を撤去する。最低でも電気柵線だけは撤去する。ただし、獣は冬季に使い慣れた圃場には電気柵を設置しても警戒心を抱かなくなり、何とかして電気柵のある圃場に侵入しようとするようになります。